



ダカールラリー2010



日野レンジャー ● 日野チームスガワラ

ダカールラリー19年連続完走を達成し、
市販車クラス優勝&排気量10リットル未満クラス優勝を獲得！



ダカールラリー2010 ■1/1-17 — 日野チームスガワラ

アフリカ以上の過酷なサバイバル戦に勝つ。 市販車および排気量10リットル未満クラスの2冠達成

日野自動車はダカールラリー2010大会に日野レンジャーの2台体制でトラック部門市販車クラスに参戦した。布陣は1号車に菅原義正/羽村勝美、2号車には菅原照仁/鈴木誠一を起用。これを日野自動車・海外部品サービス部門と全国販売会社から選抜されたメカニック4名(門馬孝之+北村忍/山崎貴士/水野潤/中野直也)がサポートする体制。2009年に続いて南米アルゼンチン/チリが舞台となったルートは全行程は9,026km、うち競技区間(SS)4,806km。同じくブエノスアイレスを基点とするループ状だが、チリの比重が高く、走行負荷の高い砂丘がふんだんに登場した。1月2日に競技がスタートすると2号車が先陣を切るかたちで排気量10リットル未満車両の首位を争うと同時に市販車クラスの上位につけるなど、日野勢は序盤から善戦。後半戦初日の10日には2号車が市販車と同時に10リットル未満のトップに



日野レンジャーの機動性を活かして道幅の狭い区間もクリア



酷暑と大砂丘で水温上昇に苦しめられた中盤戦



日野レンジャーの走りをしっかり支えたメカニックたち



ピバークでの入念な点検整備作業は朝までかかることもしばしばだった



躍進した。翌11日には1号車が排気系のトラブルで惜しくも戦列を去ったが、2号車はその後も後続との差をじわじわと拡大。最終的に改造クラスの大型勢を相手に総合7位という高順位とともに市販車クラスでは2位に6時間9分29秒、10リットル未満の2位には17時間23分29秒という大差をつけて16日ブエノスアイレスにゴールし、見事2冠を達成。改造範囲に限られる市販車部門での勝利により日野レンジャーの信頼耐久性の高さとともにチームの総合力を実証した。出走52台中完走は28台で完走率53.8%の厳しい戦いだった。



ゴールセレモニーで健闘を讃えたチームスタッフたち

■トラック部門 総合順位

順位	No.	ドライバー (国籍)	メーカー	タイム
1	501	CHAGIN (RUS)	KAMAZ	55:04:47
2	500	KABIROV (RUS)	KAMAZ	56:17:55
3	508	VAN VLIET (NLD)	GINAF	65:48:07
4	506	MACIK (CZE)	LIAZ	67:26:08
5	505	MARDEEV (RUS)	KAMAZ	70:04:16
6	503	VAN GINKEL (NLD)	GINAF	70:34:03
☆7	514	SUGAWARA (JPN)	HINO	72:34:24
8	523	OLIVERAS (AND)	MERCEDES	78:43:53
9	511	JUVANTENY (ESP)	MAN	79:20:14
10	518	CLAUDIO (ITA)	GINAF	81:51:59

☆=市販車クラス1位、排気量10リットル未満1位
*AND=アンドラ CZE=チェコ ESP=スペイン ITA=イタリア
JPN=日本 NLD=オランダ RUS=ロシア

ドライバー・プロフィール



菅原 義正

- Yoshimasa SUGAWARA
- 1941年生まれ

1965年より国内レースに参戦し、17年間で59戦に出場。その後サハ

ラ砂漠横断などの冒険行を経て1983年(41歳)に初めてオートバイでダカールラリー(当時パリダカ)に参戦した。以来、四輪部門7回の経験を経て、1992年より日野自動車のトラックで参戦。トラック部門総合準優勝6回、排気量10リットル未満クラス優勝7回の実績を持ち、2009年までのトラック部門完走率は100%を誇る。2009年4月には「パリダカ世界最多連続出場26回」「パリダカ世界最多連続完走20回」の世界記録についてギネスブックの認定を受けた。日本レーシングマネージメント(株)取締役会長。



菅原 照仁

- Teruhito SUGAWARA
- 1972年生まれ

1998年のダカールラリーにチームスガワラ(当時)のメカニックと

して初参戦し、翌年からは父・義正のナビゲーターを担当。同時に国内オフロードレース出場やラリーレイド・モンゴルのカミオンバレー・ドライバーなどで経験を重ね、2003年のファラオラリーでは日野レンジャーを駆ってトラック部門総合優勝を飾った。ダカールラリー2005年大会からは親子二代の日野レンジャー2台体制で参戦し、2007年には排気量10リットル未満クラス優勝を獲得するなど成長著しい。日本レーシングマネージメント(株)代表取締役。

車両開発レポート



過酷なラリーに全社的体制で挑戦

日野は1991年、日本のトラックメーカーとして初めて世界で最も過酷といわれるダカールラリーに参戦した。以来2010年大会まで連続19回(2008年は開催中止)の挑戦で全て完走を果たし、1997年には史上初のトラック部門1~3位独占で総合優勝。また、排気量10リットル未満クラスで圧倒的な強さを発揮するなど、高い知名度と定評を得ている。日野にとってダカールラリーは夢と情熱をかけてチャレンジすることを体感するものであり、挑戦をし続ける日野スピリッツの象徴である。2010年大会に向けてはプロジェクト総括を総合企画部、

車両開発チーム統括を技術管理部、試作及び現場の整備チーム統括を海外部品・サービス部、輸送を物流企画部が担当する等全社的な体制で2009年大会終了と同時に準備作業に着手。車両開発は日野グループはもちろん関係各社との連携を図りながら進められ、8月のラリーモンゴリアへのテスト参戦を経て仕様を決定。9月には公募選抜されて現地に派遣される販売会社メカニックも車両開発に加わった。そして同月実施した国内走行テストで改良の成果を確認された2台の車両は10月末までに完成。11月初旬、南米へ向け船積みされた。

■日野のダカールラリー戦歴 1991-2010

出場回数	大会年度	コース	トラック部門総合成績/排気量10リットル未満クラス成績	総走行距離	出場車両
19	2010	ブエノスアイレス~ブエノスアイレス	7位・リタイア/市販車クラスおよび排気量10リットル未満クラス優勝	9,026km	日野レンジャー
18	2009	ブエノスアイレス~ブエノスアイレス	14位・26位/2位・6位	9,579km	日野レンジャー
—	2008	大会中止			
17	2007	リスボン~ダカール	9位・13位/優勝(優勝車のみ表彰)	7,915km	日野レンジャー
16	2006	リスボン~ダカール	5位・7位/クラス別なし	9,043km	日野レンジャー
15	2005	バルセロナ~ダカール	2位・6位/優勝(優勝車のみ表彰)	8,956km	日野レンジャー
14	2004	クレルモンフェラン~ダカール	5位/クラス別なし	10,411km	日野レンジャー
13	2003	マルセイユ~シャルムエルシャイク	5位/クラス別なし	8,602km	日野レンジャー
12	2002	アラス~マドリッド~ダカール	3位/優勝(クラス優勝7連覇)	9,440km	日野レンジャー
11	2001	パリ~ダカール	2位/優勝	10,873km	日野レンジャー
10	2000	パリ~ダカール~カイロ	5位/優勝	7,880km	日野レンジャー
9	1999	グラナダ~ダカール	4位/優勝	9,441km	日野レンジャー
8	1998	パリ~グラナダ~ダカール	2位/優勝	10,570km	日野レンジャー
7	1997	ダカール~アガデス~ダカール	優勝・2位・3位/優勝・2位・3位(トラック部門史上初制覇)	8,051km	日野レンジャー
6	1996	グラナダ~ダカール	6位・11位/優勝・2位	7,579km	日野レンジャー
5	1995	グラナダ~ダカール	2位/クラス別なし	10,067km	日野レンジャー
4	1994	パリ~ダカール	2位/クラス別なし	13,398km	日野レンジャー
3	1993	パリ~ダカール	6位/クラス別なし	8,877km	日野レンジャー
2	1992	パリ~シルト~ケープタウン	4位・5位・6位・10位/クラス別なし	13,015km	日野レンジャー
1	1991	パリ~トリポリ~ダカール	7位・10位・14位/クラス別なし(日本のトラックメーカーとして初参戦)	9,186km	日野レンジャー